

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第79号

2017年2月4日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2017年度総会・全国研究大会 概要

日時：2017年6月17日（土）・18日（日）

会場：成城大学（〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20）

*会場アクセス <http://www.seijo.ac.jp/access/>

担当：花井清人（成城大学）

*プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

□第1日目 6月17日（土）

10:00 理事会

13:30 開会セレモニー

14:00～14:45 特別講演（豪日交流基金助成）：

デイヴィッド・カーター（東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

15:00～17:30 豪日交流基金（A J F）助成企画 Japan and Australia: What Can We Do for Global Platform?

（その1） “Transformation or Evolution?: 10 Years after the Japan-Australia Joint Declaration of Security Cooperation”

報告者： アンドリュー・オニール（グリフィス大学）

シロー・アームストロング（オーストラリア国立大学）

討論者： 菊地努（青山学院大学）

クリストファー・ポカリエー（早稲田大学）

司会： 福嶋輝彦（防衛大学校）

18:00 懇親会

□第2日目 6月18日（日）

10:00 一般個別研究報告

12:00 昼食休憩／理事会

13:00 総会

14:00～16:50 豪日交流基金（A J F）助成企画 Japan and Australia: What Can We Do for Global Platform?

（その2） 「グローバル化する日豪関係と人材育成：大学はグローバル人材をどう育て、アジア太平洋地域とどう連携すべきか」

基調講演： 木畑洋一（成城大学）

パネリスト：木畑洋一（成城大学）

青木麻衣子（北海道大学）

大庭三枝（東京理科大学）

ポール・ハリス（オーストラリア大使館）

司会： 永野隆行（獨協大学）

16:50 閉会挨拶

全国研究大会 一般個別研究報告申し込み延長のお知らせ

オーストラリア学会 2017 年度総会・全国研究大会は、6 月 17 日（土）・18 日（日）の両日に、成城大学で開催される予定です。個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、3 月 15 日（水）までに、学会事務局あてに書面またはメールにてお申し込みください。その際、200 字程度の要旨を添付してください。

2. 第 10 期第 2 回理事会報告

日 時：2016 年 12 月 4 日（日）15:00～17:00

場 所：名古屋商科大学 伏見ビル カンファレンス B

出席者：藤田智子、花井清人、石井由香、鎌田真弓、加藤めぐみ、佐和田敬司、友永雄吾、堤純、山内由理子、吉田道代（以上、理事、ABC 順）、委任状 8 通

【報告】

1. 鎌田代表理事より中国での FASIC（Foundation for Australian Studies in China）4 参加報告および地域研究学会連絡協議会（JCASA）について報告があった。
2. 花井理事より、2016 年 6-11 月の一般会務報告があった。
3. 佐和田理事より、2016 年 6-11 月の活動および企画報告があった。
4. 加藤理事より、2016 年 6-11 月の編集活動報告があった。
5. 石井理事より、2016 年 6-11 月の会計報告があった。

【議題】

1. 鎌田代表理事より、2018 年度全国研究大会開催校として筑波大学（会場校担当：堤理事）が提案され、承認された。
2. 鎌田代表理事より、2019 年度全国研究大会で一部のパネルを国外からの参加者にオープンにし、国際大会に準じた形で企画することが提案され、承認された。
3. 花井理事より、国際文献社との契約更新について報告があり、運営委員会で検討を加えた結果、学会財務運営での厳しさを踏まえた上で外部業務委託については合理化努力を継続するが、次年度については基本的には「契約金額査定基準書」に基づいた契約を行うことが提案され、承認された。
4. 花井理事より、関東・関西例会補助の予算化について、一回当たり 5 千円の例会運営補助を行うことの提案があり、了承された。次の例会（2017 年 3 月）から適用されることになった。
5. 加藤理事より、優秀論文賞に関して審査委員会の設置についての提案があり、選考委員の打診ならびに今後の予定も含めて、了承された。
6. 加藤理事より、学会誌 24 号までの電子化許諾書オリジナルの処分に関して提案があり、了承された。
7. 鎌田代表理事より、国際学会派遣事業に関して、若手、院生の派遣を促すようなルール化を今後検討したいという提案があり、了承された。
8. 花井理事より、会員名簿（紙媒体）の作成に関して提案があり、遅くとも来年度までには作成するよう、運営委員会で検討することが了承された。
9. 花井理事より、入会者・退会者一覧が提示され、承認された。
10. 吉田理事より、学会広報活動のためにフェイスブックの設置が提案され、了承された。
11. 会員数の減少への対処、および学会運営の効率化に関して、今後の検討課題であることが了解された。

3. 国際学会参加報告：第 4 回 FASIC カンファレンス

湊圭史（同志社女子大学）

2016 年 11 月 16 - 18 日、中国・広州の中山大学に於いて、第 4 回 FASIC カンファレンスが開催された（FASIC は The Foundation for Australian Studies in China の略）。中国、オーストラリアならびに世界各地から研究者が集まり、多彩な講演・研究発表・議論が繰り広げられた。招待を受け、日本からもオーストラリア学会会員 3 名、加賀爪優（京都大学）、鎌田真弓（名古屋商科大学）、湊圭史（同志社女子大学）が参加した。

全体のテーマは“Sustainability: Social and Environmental Issues”。日本で同テーマの学会が開催されるとすれば、“Environmental”の語に注目が集まって自然環境が主たる話題になりそうだが、FASIC カンファレンスでは“Social”の側面、いかに国際的協力関係を維持し、相互の文化理解を向上させていくかが、ほとん

どのパネルでの議題となっていた。鎌田会員は“Shark and Trepang Fishing in Australia’s Northern Waters: Illegalised Activities of Indonesian Fishermen”、加賀爪会員は“Resource Issues and Australia-Japan Relation”、湊は“Bioregionalism in Contemporary Australian Poetry”と、日本からの参加者は環境に関するテーマを絡めた発表を行い、また、オーストラリアからの参加者にも同様の傾向があった。この点では、社会・文化に重点をおく中国人研究者とそれ以外の国の参加者とは、多少の意識のずれがあったように感じられた。パネル・講演以外では、休憩時間・会食・晩餐会を通じて中国人研究者のいわゆる「コミュ力」の高さに圧倒され、振り返って、日本の研究者の国際的あり方について考えさせられるよい機会になった。

カンファレンスにおける中国側の歓待は、会全体にしても個々の研究者や学生ボランティアにしても、私の予想をはるかに越えるもので、中国におけるオーストラリア研究、そして国際的学术交流の充実ぶりが肌からじかに感じられた。また、会場となった中山大学のキャンパスのいたるところにそびえ立つ亜熱帯の巨木は、シドニーやケアンズの風景を思い起こさせるところがあり、オーストラリアをいつもとは違った視点で考える絶好の場所だった。このような会に参加できる機会を与えていただいたことを深く感謝したい。

4. 特別研究会報告：オーストラリアのツーリズム——過去と現在——

吉田道代（和歌山大学）

2016年11月19（土）14：00～17：00に関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて、特別研究会「オーストラリアのツーリズム—過去と現在—」を開催いたしました（出席者13名）。まず、ジョセフ・チアー氏（Dr. Joseph M. Cheer）（モナッシュ大学）より、「オーストラリアの地方のビジター・エコノミーにおける社会生態学的レジリエンス—批判政治生態学的視角からみるグレートオーシャンロード地区—」のご発表をいただき、オーストラリアにおける自然景観を資源とする観光開発の現状と可能性について活発な議論が交わされました。次のドナ・ウィークス氏（Dr. Donna Weeks）（武蔵野大学）による「豊かな天然資源大国から好ましい観光地へ—明治時代の日豪関係の再考—」のご発表では、明治時代初期の日豪関係およびその当時にオーストラリアを探検した日本人の渡航動機や旅行中の行動についてご説明いただき、続いて熱心な討論が行われました。2つのご発表により、本会は、オーストラリアの観光について、歴史的・地理的・政治的観点から理解を深める素晴らしい機会となりました。

5. オーストラリア学会 第24回地域研究会（関西例会）のお知らせ

※会員以外の方も参加できます。入場無料。

以下の日時・場所にて関西例会を開催します。

- ◆日 時：2017年3月25日（土）14：00～17：00
- ◆場 所：関西学院大学 上ヶ原キャンパス F号館104教室
- ◆連絡先：〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
関西学院大学国際学部 長友淳 nagatomo@kwansei.ac.jp
- ◆交 通：阪急甲東園駅 西口よりバス5分 または徒歩15分
阪急仁川駅 西口より徒歩20分
JR西宮駅 北口よりバス20分
<交通詳細> http://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_000374.html
<キャンパス・マップ> <http://www.otemon.ac.jp/campusmap/index.html>

*研究会後、簡単な懇親会を予定しております。ふるってご参加ください。

発表1. 14:00-15:20（発表50分、質疑30分）

『ニッケイ』への包摂と排除—在豪日本人の日本関連学校、エスニック組織、ソーシャル・メディアを通じた社会的ネットワークに関する調査をもとに—（仮）

長友淳（関西学院大学）

在豪日本人社会は、90年代の中間層の移住者増加、2000年代以降の国際結婚の急増と2世の増加など、顕著な変化を経験し、現在、日本人社会からニッケイ社会への転換期にあると言っても過言ではない。この状況の中で、日本語補習校やエスニック組織に関わりを持つ者とそうでない者、さまざまな移住者が存在し、エスニック・コミュニティの重層性と分断を生んでいる。以上の点を踏まえ、本発表では、筆者が過去に行った調査に加えて、2017年2月に実施予定の調査結果を交えながら、誰がニッケイに包摂・排除されるのか、またその理論的解釈について論じる。

発表 2. 15:40-17:00 (発表 50 分、質疑 30 分)

“Japanese lifestyle migration, narratives and lifestyle migration theory”

ジャレット・デンマン (福井県立大学)

Contemporary Japanese migration and overseas residency are being increasingly understood through the lens of lifestyle migration, whereby those who leave Japan prioritise lifestyle factors ahead of other considerations. Studies of Australia's Japanese communities in particular have tended to focus on such migrants and advance this concept.

Theories of lifestyle migration propose that themes of escape, pursuit and personal transformation are central to how these migrants narrate their migration. In general, Japanese lifestyle migrants are motivated by similar concerns, however not all express their migration in such terms. In this paper, I consider those who migrated to Southeast Queensland during the late 1980s and early 1990s and how their migration narratives are thematically different from existing theory.

6. 第 23 回地域研究会 (関西例会) 報告

南出眞助 (追手門学院大学)

2016 年 10 月 15 日 (土) 14:00~17:00 に、大阪府茨木市の追手門学院大学図書館の協力により、同館オーストラリア・ライブラリーで開催されました。発表テーマは 2 つ。①貞光宮城 (追手門学院大学)「オーストラリア英語の特徴はどのように残って/消えていくのか」、②南出眞助 (追手門学院大学)「オーストラリア学会地域研究会 (関西例会) の回顧と展望」。①はオーストラリア英語の特徴に関する、1 年間のパースでの研究成果の一部であり、虚辞代名詞 she に焦点を当て、現代の口語用例を集めた複数のコーパスを分析し、現状を調査したものでした。現地で収集できた用例はきわめて少なかったようですが、日常会話において天候を示す it の代わりに she を用いるなどの例が提示され、参加者のさまざまな現地体験からもオーストラリア英語の特徴が議論されました。②は、関西例会が 2005 年に発足して以来の発表者とテーマを南出がリスト化し、内容を a 環境・資源・地理、b 歴史・日系移民、c 先住民、d 多文化主義、e 教育・福祉・社会制度、f 芸術・文学・言語、g 政治・外交に分類しました。とりわけ今回参加が多かった b、c、d、e の分野の発表者を中心に発言を求め、総括と今後の共同研究に関する方法論的な展望等について意見を交換しました。発表当時は大学院生であったが今は大学でポストを得ているという若手研究者も多く、「共同で科研を取りたい」という提言も出ました。参加者 21 名。

7. 第 11 回地域研究会 (関東例会) 報告

佐和田敬司 (早稲田大学)

2016 年 11 月 12 日の 15 時から 18 時まで、早稲田大学オーストラリア研究所との共催で同大学にて開催された。同研究所の論文集『サステナビリティ・サイエンスとオーストラリア研究：地域性を越えた持続可能な地球社会への展望』刊行を前に、同書執筆者から三人が登壇した。宮崎里司氏は、サステナビリティ学が今後オーストラリア研究に貢献する可能性について述べた。多田稔氏は「水産資源の保全に向けた日豪の取り組み」で、日本の水産資源保全に向けた取り組み、豪の水産資源保全に向けた取り組み、そして太平洋島嶼国の水産業の持続的発展に向けた日豪の協力関係について説明し、その上で漁業管理が水産資源と経営どちらの持続可能性を重視すべきか、太平洋島嶼国の経済発展の持続可能性はどう実現され得るか問題提起をした。原田容子氏は「港町アルバニーのアイデンティティ・シフト—最後の捕鯨の町からアンザック発祥の地へ」で、アルバニーがアイデンティティをシフトさせることで、歴史にその名前を刻み国内における知名度を上げることに成功した事象を分析した上で、アンザックが持続的にポジティブなイメージを保持する保証はなく、一方で自然環境が維持される限り鯨にまつわる人々の営みは続き、二つの表象が再び変転する可能性を示唆した。その後、参加者を交え少人数だが充実した議論が行われた。

8. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2016 年 5 月に年会費を納入しても、2015 年度未払いの場合、それは 2015 年度の会費となります。すなわち、2016 年度は未納ということになります。また 2014、2015 年度未払いの場合、2014 年度分の会費納入になります。

<2015 年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2015 年度を含め最多3 年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2016 年 3 月発行、第 29 号）までをお送りしております。事務局では 3 年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

9. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・加藤 (kato@sw.meisei-u.ac.jp) にご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、もしくは会報 29 号掲載の「投稿要領」（2011 年 12 月 11 日一部改訂）をご参照ください。

第 30 号の刊行は 2017 年 3 月を予定しています。次の 31 号の投稿締め切りは 2017 年 8 月 31 日です。30 号・31 号に掲載された論文は「第 2 回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは 29 号(2016 年 3 月刊行) 掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2017 年 10 月 30 日です。編集作業の都合上、電子メールをご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

10. 新刊書のご案内

白田明子『オーストラリアの学校外保育と親のケア—保育園・学童保育・中高生の放課後施設』明石書店（2016 年 6 月刊行/A5 判/208 ページ/3,500 円+税）

オーストラリアでの育児はなぜ楽だったのか——。日豪両国で出産・育児を経験した研究者である著者が、自らの体験を交えながら、多様な年齢の子どもに対応した保育サービスの充実ぶりやユニークな親へのケアなどを紹介し、その理由を解き明かす。（出版社紹介より）

長友淳編『オーストラリアの日本人—過去そして現在』法律文化社（2016 年 7 月刊行/A5 判/252 ページ/4,800 円+税）

質的調査を通じて移民政策および社会の歴史的变化を克明に分析。第 1 部は戦前・戦中・戦後の白豪主義下の歴史と記憶を取り上げ、第 2 部は多文化主義が導入された 70 年代以降の社会のなかで日本人コミュニティを位置づける。（出版社紹介より）

藤川隆男『妖獣バニヤップの歴史—オーストラリア先住民と白人侵略者のあいだで』刀水書房（2016 年 7 月刊/四六判/332 ページ/2,300 円+税）

バニヤップはオーストラリア先住民に伝わる、水陸両生の幻の生き物です。イギリスの侵略が進むなかで、白人入植者の民話として取り入れられて、今では著名な童話のキャラクターになりました。本書はこの幻の動物のものがたりです。（本書帯より）

【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当

TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付

TEL 03-3482-9403 E-mail: khanai@seijo.ac.jp

会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力 : 藤岡伸明 (静岡大学)]